

# 18 さね 実

## ■緑の溪谷にヤマセミが飛ぶ

### 川 (東蒲・鹿瀬町)

■環境：渓谷  
 ■対象：一般  
 ■期間：5月上旬～  
 6月下旬

飯豊山を源にする阿賀野川の支流で、水量豊かなイワナの住む溪流は大きな滝やがけが多い。日本でも有数の豪雪地帯であり、人を寄せ付けない深い渓谷には、オオルリ、ヤマセミ、カワガラスやキセキレイなどが観察できる。

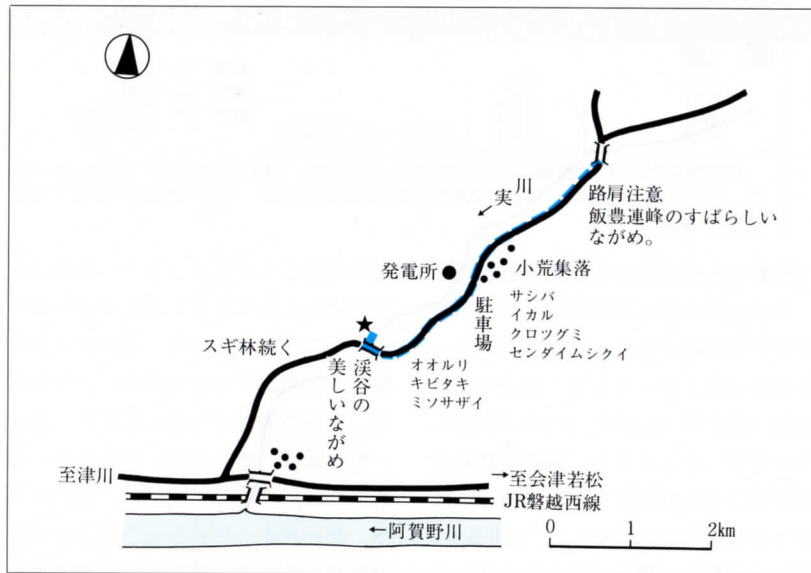
#### 〈初夏から夏にかけて見られる鳥たち〉

5月上旬、トチ、ミズナラ、アカシデ、ブナなどが開業し、渓谷は若葉一色となる。実川は雪解け水で濁り、大きな音を立てながら流れていく。小荒発電所わきに車を止め林道を歩いてみる。斜面などでは赤紫色のユキグニミツバツジの花が見られ実に鮮やかだ。林床を彩るのは濃いピンクのイワウチワの花で、場所によってはじゅうたんを

敷きつめたように一面を覆っている。真っ先に渡来したのはオオルリで、早くも渓谷の木のこずえに止まってさえずっている。山腹の混交林ではキビタキやセンダイムシクイ、メジロ、シジュウカラ、ヤマガラ、イカル、クロツグミなどがさえずり、遠方からはツツドリなどのどかな声が聞こえてくる。渓谷を上流から下流へと飛び交うのはカワガラスで、巣立ったばかりのヒナへ



新緑の実川溪谷



の給餌に忙しそうだ。ヤマセミも巣穴に魚を運んでおり、実川渓谷では比較的目に触れることが多い。沢ではミンサザイが豊かな声量を響かせ、しばし聞き入ってしまう。

6月に入ると、実川の水量も一定となり、青緑色の流れは渓谷の青葉とマッチして実に美しい。上空を舞うのはノスリとサシバ。日当たりのよい斜面の所々でタニウツギの赤紫色の花が見られるようになり、杉林などやや薄暗い所ではシャガの花も見ることができる。渓谷にはオオルリのさえずりが響き、混交林ではキビタキやセンダイムシクイ、クロツグミ、カラ類が合唱する。夏鳥の中では渡来の遅いホトトギ

スやジュウイチのさえずりがこのころから聞かれ、実川は生命力に満ちた季節の到来となる。

(渡部 通)

#### メモ

**交通** JR磐越西線、日出谷駅で下車、徒歩10～15分、渓谷散策は片道2時間くらい。

☐ 林道沿いに所々で広場があり、そこに駐車するとよい。小荒発電所付近、実川発電所付近がよい。渓谷沿いの道路なので駐車には滑落に注意。トイレは日出谷駅にあるのみ。

**探鳥会** 特別にはない。